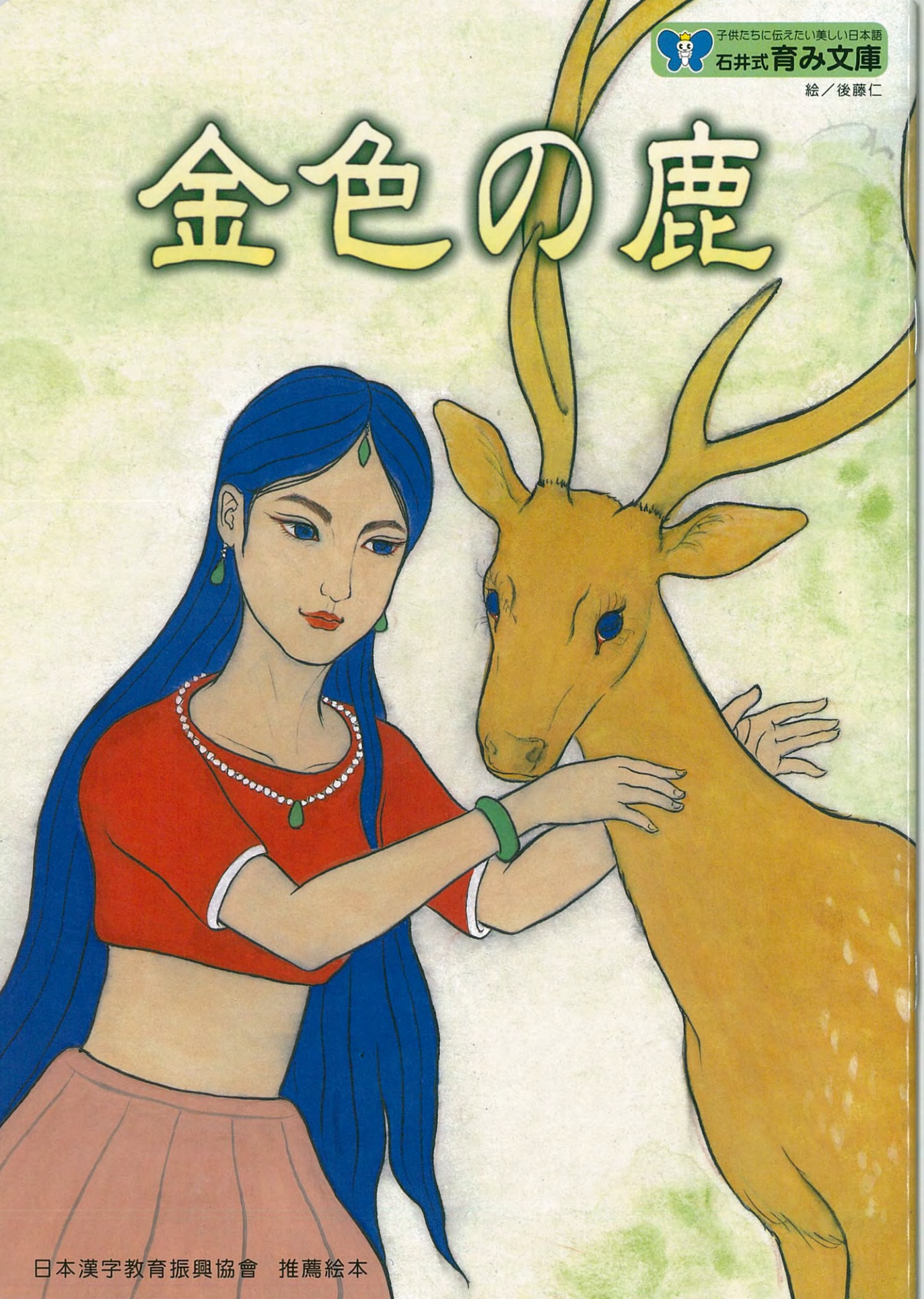


金色の鹿



昔、あるところに、金が大好きな王様が住んでいました。
その王様は、国中の金を集めようとしていました。



王様



ある日、王様は家来をつれて森へ狩りに出かけました。
すると、森の奥に金色に輝く鹿が踊っていました。
鹿が地面を蹴るたびに、

金の砂が飛び散っているではありませんか。

「あの鹿を捕まえろ！」

その声を聞いた鹿は、森の奥へと走りやりました。



家来

森を抜けた草原には、とても優しい娘が暮らしていました。

そこへ、勢いよく金色の鹿が飛び出してきたのです。

「どうしたの？ そんなに慌てて。」

「王様に追われているのです。」

私のことは絶対に教えないでください。」

「わかったわ。早く逃げて。」

娘が約束をすると、鹿はすぐに走りやりました。

娘

鹿